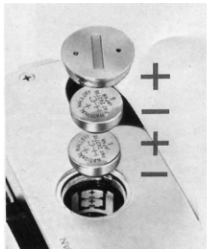
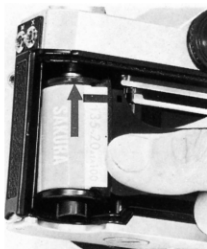
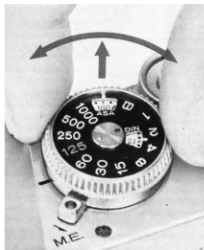
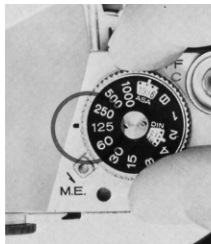
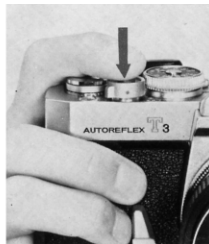
KONICA AUTOREFLEX T3

J

AE撮影の基本操作

・取扱いの詳しい説明は、各ページを参照してください。

1 水銀電池を入れます。

2 フィルムを入れます。

3 フィルム感度をセットします。

4 EEマークにセットします。

5 シャッター速度を決めます。屋外1/125秒、室内1/30秒。

6 構図を決め、ピントを合わせます。

7 露出を確認し、シャッターをきります。

8 撮影が終ったら、フィルムを巻もどします。

各部の名称

①シャッターボタン
②フィルムカウンター
③メータースイッチ兼
レリーズロックレバー
④EEマーク
⑤セルフタイマー兼
絞り込みレバー
⑥セルフセットボタン
⑦被写界深度目盛
⑧距離目盛
⑨マニュアル絞り目盛
⑩ヘキサノンレンズ
⑪フォーカスリング
⑫絞りリング
⑬EE解除ボタン
⑭巻上げレバー
⑮フィルム感度表示窓<DIN>
⑯フィルム感度表示窓<ASA>
⑰巻上げ完了表示マーク
⑱多重露出レバー
⑲シャッター速度目盛
⑳シャッター速度ダイヤル
㉑距離基準マーク
㉒巻もどしクランク
㉓巻もどしノブ
㉔シンクロソケット<M･X>
㉕ストラップ取付け金具
㉖レンズ着脱指標
㉗レンズ交換ボタン
KONICA
AUTOREFLEX T3
T-3

㉘裏ぶた開き爪
㉙巻もどし軸
㉚パトローネ室
㉛シンクロ接点
(専用ホットシュー
クリップ用)
㉜アイピース
㉝シャッター
㉞フィルムガイド
㉟スプロケット
㊱巻取りスプール
㊲フィルム差し込み溝
㊳フィルム圧板
㊴裏ぶた
㊵メモホルダー<背面>
㊶巻もどしボタン
㊷三脚取付けねじ
㊸水銀電池室

おもな性能

型式：35mmフォーカルプレーンシャッター式TTL・AE一眼レフレックスカメラ

使用フィルム：35mmフィルム(J135)パトローネ入り

画面サイズ：24×36mm

基準レンズ：ヘキサノンAR50mm F1.7(５群６枚構成)、
AR50mm F1.4(６群７枚構成)、
AR57mm F1.2(６群７枚構成)、
各レンズ共EEロック機構付
至近撮影距離0.45m

マウント：バヨネット式コニカマウントⅡ型
直径47mm、フランジバック40.5mm

絞り機構：AE式完全自動絞り、最小絞りF16
被写界深度確認用絞り込み機構付

シャッター：上下走行式メタルフォーカルプレーン・ハイシンクロシャッター“コパルスクェアＳ”多重露出機構内蔵

シャッター速度：B・1～1/1000秒、倍数系列等間隔目盛、一軸不回転ダイヤル、Ｔ露出可能

シンクロ：ホットシュークリップ用Ｘ接点、Ｍ接点でＭ、FP、MF級全速度同調、Ｘ接点でストロボ1/125秒まで同調

セルフタイマー：作動秒時可変式　全作動約10秒、安全ロック装置付

ファインダー：ペンタプリズム使用アイレベルファインダー、倍率0.78倍(50mmレンズ∞)視野率は実画面の約92％　マイクロダイヤプリズム式(またはスプリットイメージ式)による実像合致式フォーカシングスクリーン付

ファインダー視野内表示：シャッター速度、絞り値、メーター指針、露出警告マーク、レンズ開放Ｆ値およびEE連動範囲表示マーク、マニュアル表示マーク、絞り込み測光用定点、電源チェックマーク

ミラー：前端垂直上昇式、完全クイックリターン

露出調節：完全自動露出(AEシステム)超高感度複合CdS２個によるTTL可変測光方式、開放Ｆ値自動補正機構付

・AE式完全自動絞りレンズ(開放測光)

AE撮影はシャッター速度優先、適正絞り自動制御式マニュアル撮影はフィルム感度、シャッター速度、レンズの開放Ｆ値に連動する適正絞り値直読式

・プリセット、普通絞りレンズ(絞り込み測光)

フィルム感度、シャッター速度、絞りに連動する定点合わせ式(ゼロメソッド式)

メーター電源：1.3V水銀電池(JIS H-C型)２個使用、メータースイッチと電源チェック兼自動解除式レリーズロック機構付

AE連動範囲：EVl.5(F1.2レンズでASA100のときF1.2、1/2秒)～EV18(F16、1/1000秒)

フィルム感度範囲：ASA12～3200、DIN12～36

露出記憶装置：シャッターボタンを使用

フィルム装てん：コニカEL方式

フィルム巻上げ：トップレバーによる一作動(巻上げ角162°引出し角30°)、巻上げ完了表示機構、二重露出防止装置付

フィルムカウンター：自動復元順算式　裏ぶたは蝶番式、メモホルダー付

フィルム巻もどし：クラウン式、巻もどしボタン自動復元

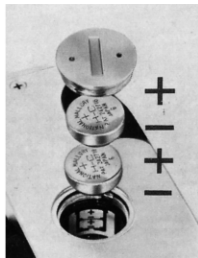
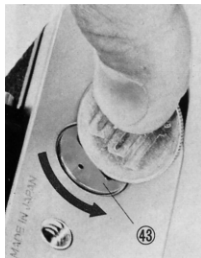
大きさ・重さ

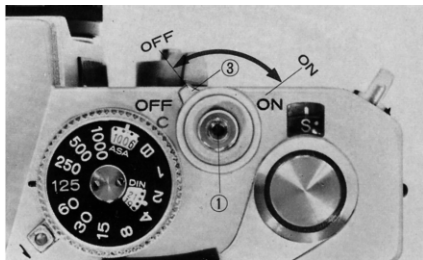
F1.7付　幅150×高さ95×厚さ91mm・980g

F1.4付　幅150×高さ95×厚さ91mm・1,030g

F1.2付　幅150×高さ95×厚さ96mm・1,200g

ボディのみ　幅150×高さ95×厚さ45mm・740g

水銀電池の入れ方

コニカT3のTTLメーターの電源は、1.3V水銀電池２個を使います。別包装の水銀電池を乾いた布でよく拭いてから入れてください。

１カメラ底部の水銀電池室㊸のふたを硬貨などで、左(反時計方向)に回してはずします。
２ 電池室内のシールに表示してあるとおり、電池は２個とも㊉マークが見えるように重ねて入れます。
３ 電池室のふたを右に回して、もとのようにしっかりねじ込んでください。

メータースイッチ兼レリーズロックレバー

シャッターボタン①のまわりにあるメータースイッチ③を左に回しOFFに合わせると、メーターのスイッチがきれ、シャッターボタンもロックされます。巻上げたまま携帯するときにお使いください。なおOFFのまま巻上げレバーを回すとレバーは自動的にONにもどるので、わざわざ手でもどす必要はありません。

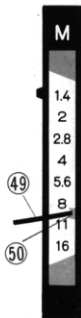
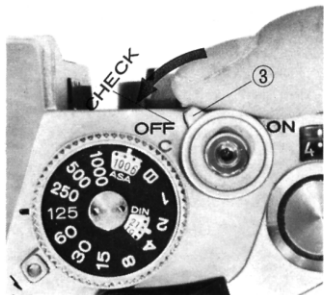
- 水銀電池は1.3V、ナショナルH-Cのほかに、東芝HS-C、マロリーPX-675、エバレディーEPX-675などをご使用ください。類似形状で規定電圧が異なるもの、たとえば銀電池などがありますから十分ご注意ください。
- カメラを長期間使わないときは、水銀電池を取り出して湿気のないところに保存してください。

電源のチェック

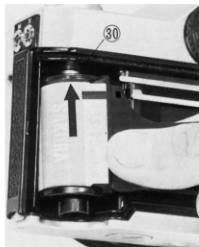
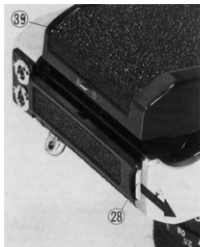
水銀電池は普通の使用状態で１年以上は十分もちます。寿命がくると急激に電圧が下がりますから、明るい所でファインダー内のメーター指針が動かないときは、電池が消耗していることがわかりますが、次の方法でチェックすることができます。

１ レンズ交換ボタン㉗を押しながら、レンズを左（反時計方向）に回してはずします。

２ シャッター速度ダイヤル⑳の外側を持ち上げて回し、フィルム感度をASA100にセットします。

３ シャッター速度ダイヤルを回し、1/125秒にセットします。

4 ファインダーをのぞきながらメータースイッチ③をOFFの位置からCの方向に押します。メーター指針㊾がF8と11の間にある電源チェックマーク㊿上にあれば電圧は十分です。もし指針がマークに達しない場合や、電圧が高い電池でマークより下に振りきれてしまうときは、指定の新しいものと交換してください。

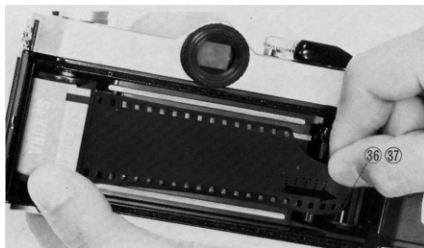
以上電源のチェックで使うものは、全部赤で表示されています。フィルム感度、シャッター速度を赤に合わせ、レバーを赤文字のC方向に押して、指針が赤マーク上にあればいいわけです。カメラ底部の電源チェックシールに従って、正しい順序で行なってください。

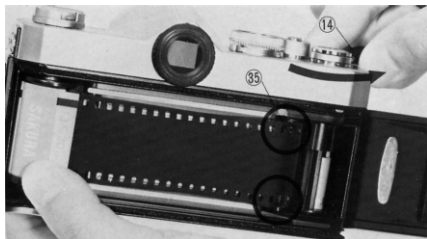
フィルムの入れ方

フィルムは市販のパトローネ入り35㎜を使います。フィルムの出し入れは、直射日光を避けて日陰で行なってください。もし日陰のないところでは、ご自分のからだの陰を利用するのも一つの方法です。

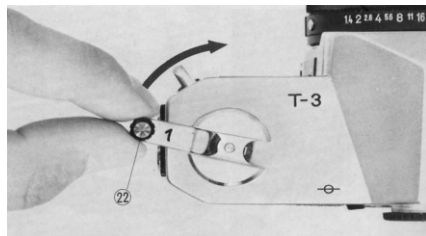
1 裏ぶたを開く

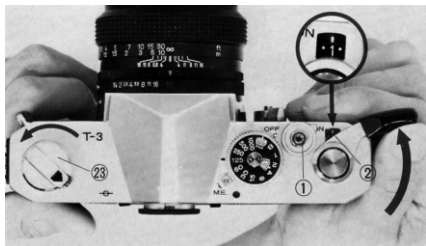
裏ぶた開き爪㉘を引いて、裏ぶた㊴を開きます。

2 パトローネを入れる

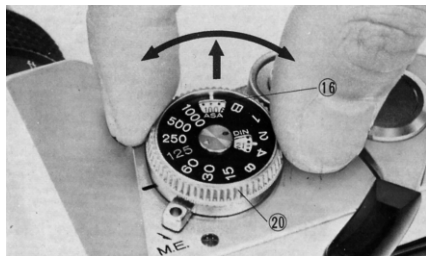
パトローネ室㉚の切り込み個所から、パトローネを斜めに滑り込ませるように入れます。

3 フィルムを差し込む

パトローネを軽く押えながらフィルムを引き出し、その先端を巻取りスプール㊱の入れやすい溝㊲に差し込みます。

4 スプロケットのかみ合いを確認し裏ぶたを閉じる

パトローネを軽く押えたまま巻上げレバー⑭を回して、フィルムをスプールに巻取ります。スプロケット㉟の両端の歯がパーフォレーション（フィルムの穴）とかみ合っていることを確認し、裏ぶたを押しつけて閉じます。

5 フィルムのたるみをとる

巻もどしクランク㉒を起し、クランクにしるされている矢印の方向に静かに回して、パトローネ内のフィルムのたるみをとります。

6 フィルムを巻上げる

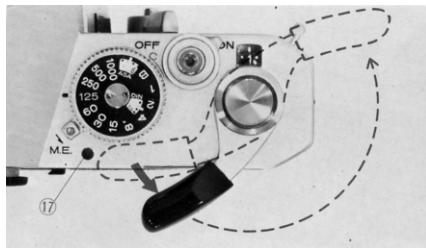
巻上げレバーを止まるところまで回し、シャッターボタン①を押す操作を繰り返し、フィルムカウンター②の指標に1をだします。巻上げレバーを回すとき、フィルムが正しく送られていれば、巻もどしノブ㉓が左(反時計方向)に回ります。もし回らないときは、フィルムを巻もどし最初からやり直してください。

フィルム感度のセット

7 フィルム感度(ASA)をセットする

シャッター速度ダイヤル⑳の外側を持ち上げて回し、フィルム感度表示窓(ASA)⑯の指標に、今入れたフィルムの感度を合わせ、落し込んでセットします。

・フィルム感度表示窓のASAとDINは、どちらもフィルムの露光指数を表わし、フィルムの外箱や説明書に印刷されています。

		〈2500〉	〈2000〉		〈1250〉	〈1000〉		〈640〉	〈500〉		〈320〉	〈250〉		〈160〉	〈125〉		〈80〉	〈64〉		〈40〉	〈32〉		〈20〉	〈16〉	
ASA	3200	·	·	1600	·	·	800	·	·	400	·	·	200	·	·	100	·	·	50	·	·	25	·	·	12
DIN	36	·	·	33	·	·	30	·	·	27	·	·	24	·	·	21	·	·	18	·	·	15	·	·	12
		〈35〉	〈34〉		〈32〉	〈31〉		〈29〉	〈28〉		〈26〉	〈25〉		〈23〉	〈22〉		〈20〉	〈19〉		〈17〉	〈16〉		〈14〉	〈13〉	

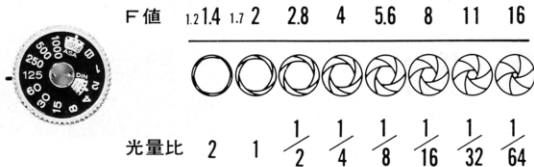
・カッコ内の数字は中間の点に相当する感度です。

巻上げ完了表示マーク

巻上げレバーを軽く手前に引出すと、指がかけやすくなります。ここから巻上げレバーを止まるまで回すと、フィルムが 1 コマ分送られ、シャッターがチャージされます。同時にフィルムカウンターが1目盛進み、巻上げ完了表示マーク⑰が赤から緑にかわり、巻上げが完了したことを示します。これでシャッターをきると再び巻上げができます。

メモホルダー

使用したフィルムの品名、種類、ASA感度などを明確にしておくために、裏ぶた中央のメモホルダー㊵に空箱のフラップを切り取って入れておくと便利です。メモ用紙を入れておくこともできます。

シャッターと絞り

F値	1.2	1.4	1.7	2	2.8	4	5.6	8	11	16
光量比		2		1	1/2	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64

シャッターは露出時間の調節を行い、被写体の動きを写し止める動きをします。シャッター速度目盛には、B、1〜1/1000秒まであり、ダイヤルには速度の分母が目盛られています。この目盛を指標に合わせるだけで速度調節が行なえます。

・シャッター速度の数字はファインダー内でも見られますから、ファインダーをのぞいたまま速度の確認ができます。

・Ｂは１秒以上の長時間のＴ（タイム）露出が必要なときに用います。

・赤数字の125はストロボ同調の最高速度を示しています。

・速度目盛の中間は使えません。必ずクリック位置でセットしてください。

・**シャッターボタンを押したまま、ダイヤルを回さないでください。**

絞りは光量と被写界深度の調節を行います。絞りリングのEEマークを指標にセットしておくだけでAE機構によって適正絞り値が自動的に決まります。また、AE機構をはずし、マニュアル絞りも使えます。以上の場合には、いずれも完全自動絞り機構が働き、シャッターをきる瞬間だけ所定の絞り値まで絞り込まれ、露出が終ると同時に開放にもどります。

・絞りは数値が大きくなるにしたがってレンズを通る光量は少なくなります。この関係は上図のように絞り値の１目盛ごとに明るさが半分になります。
・絞りリングの横にEE解除ボタン⑬をもつレンズは、EEマークが指標からはずれないようにEEロック機構付です。EEをはずしてマニュアル絞りを使うときは、このボタンを押しながら回してください。
・絞り口径は連続して変りますから、絞り目盛の中間でも使えます。

TTLメーターの測光方式

コニカT3のTTLメーターは、カメラの撮影レンズを通って(Through The Lens)、実際にフィルム面に達する光を測光するだけでなく、部分測光――中央部重点測光――全面平均測光と、レンズの画角に合った３つの測光方式を自動的に選択する可変測光式です。絞りが開放の明るいファインダーを見ながら測光できる開放測光と、実際に絞り込んで行なう絞り込み測光ができます。アイピースの両側にある２個の複合CdSに深いフードをつけて受光部を内側に傾け、図に示すようにピントグラスに結像した被写体の明るさをコンデンサーレンズの曲率を選んで測る最も理想的な測光方式です。

(ご注意)コニカT3には、従来のオートレックス用AE式完全自動絞りのレンズをそのまま使うことはできません。必ず各レンズ共T3用レンズ(F値導入のレンズ)に改造してからご使用ください。
簡単に改造できますから、最寄りのサービスステーションにお持ちください。

可変測光の感度分布

機構図

シャッター速度と
フィルム感度連動索
シャッター速度と
フィルム感度ダイヤル
メータースイッチ
ペンタプリズム
メーター指針
シャッター速度目盛
視野内メーター表示窓
開放Ｆ値表示マーク
撮影レンズ
(50mmＦ1.4)
開放Ｆ値連動索
固定抵抗
可変抵抗
複合CdS
アイピース
メーター
コンデンサーレンズ
フォーカシングスクリーン
(ピント板)
ミラー
開放Ｆ値連動レバー
水銀電池

視野内メーターの見方

1．適正露出の絞り値：AE撮影でメーター指針㊾が適正露出範囲にあるとき、指針の示す絞り目盛51が、シャッターをきると実際に絞り込まれる絞り値です。

2．適正露出範囲：F1.2以外のARレンズの場合は、開放Ｆ値表示マーク㊽が使用レンズの開放F値を示しますから、この赤マークに指針がかかっているときは露出不足になります。なお、開放F値表示マークはメーターの連動範囲外になると下方に移動し、メーターの連動範囲の表示もします。したがって、AE撮影では上下の赤マーク内が適正露出範囲になります。

3．シャッター速度表示：ファインダー視野内の下に使用時のシャッター速度目盛㊻が表示されます。

4．マニュアル表示マーク：AE機構を解除してマニュアル撮影に切り替えたとき、あるいは絞り込み測光の場合は、メーター窓の上に“Ｍ”のマニュアル表示マーク㊼が現われ、AE撮影でないことを警告します。

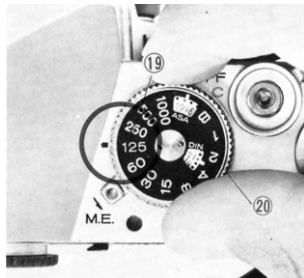
5．絞り込み測光用定点：絞り込み測光のとき、メーター指針をこの定点㊺に合わせると適正露出が得られます。

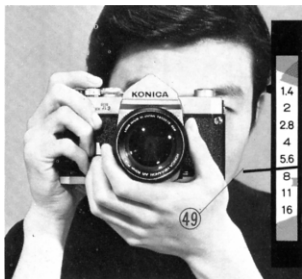
6．電源チェックマーク：電源チェックマーク㊿は、TTLメーターの電源である水銀電池の電圧をチェックするときに使います。

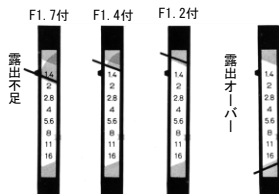
AE撮影(開放測光)

EEマークのついたARレンズを使う場合の撮影方法で、通常はこの方法でAE(オートマチック・エクスポージャー)撮影を行います。

1 EEマークにセットする

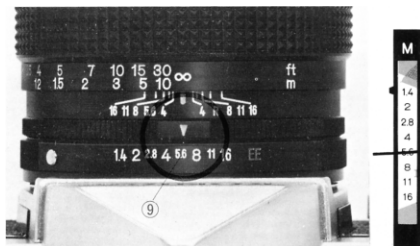
絞りリング⑫を回し、EEマーク④を指標にセットします。EEロックが入り確実に固定されます。

2 シャッター速度を決める

シャッター速度ダイヤル⑳を回し、被写体の明るさに応じたシャッター速度目盛⑲を指標にセットします。一般には屋外で1/125秒、室内では1/30秒にセットしておけば便利です。

3 ファインダーをのぞく

カメラを被写体に向けてファインダーをのぞき、構図を決めてピントを合わせ、視野内のメーター指針㊾を見ます。指針が上下の赤マーク（露出限界マーク）に入っていなければ、常に適正露出が得られます。

メーター指針が露出不足を示したときは、シャッター速度を遅くします。また、指針が露出オーバーを示したときは、シャッター速度を速くします。これで指針が赤マークから離れば適正露出となります。

もし被写界深度の関係で絞りを優先させたいときは、シャッター速度ダイヤルを回して、指針が希望の絞り値を示すように調節します。ただしシャッター速度は中間では使えませんから、ダイヤルはクリック位置で止めてください。

・シャッター速度ダイヤルのＢ目盛で、メーター指針が適正露出範囲にあっても意味がありませんから用いないでください。

マニュアル撮影

フラッシュ撮影や、T（タイム）露出の場合AEを解除してマニュアル絞りに切り替えます。EE解除ボタンを押しながら絞りリングを回して、指標からEEマークをはずしマニュアル絞り目盛⑨にセットします。マニュアル絞りのときもTTLメーターはフィルム感度、シャッター速度、レンズの開放F値に連動していますから、視野内メーターは利用できます。指針が示す適正絞り値を読み取って絞りリング上のマニュアル絞り目盛を決めてください。

露出の補正

コニカT3のTTL-AEは、通常の撮影において正確な露出が得られますが、逆光線撮影や主要被写体に対して周辺の明暗差が大きく画面を構成する場合、あるいは特殊な撮影効果を出すためには、露出記憶装置を使用して露出補正したほうがよい結果が得られます。また、このような特殊条件を連続撮影する場合は、フィルム感度目盛を補正する方法が便利です。

開けた風景や逆光線撮影の場合

空や海などの非常に明るい背景や強い逆光線の撮影では、背景の影響を受けて実際に写したい主要被写体が露出不足になることがあります。このようなときはカメラを下向にするか、または被写体に近づき、シャッターボタンを軽く一段押してメーター指針を止めたまま、もとの構図にカメラを向け直してシャッターをきります。
フィルム感度目盛による補正は、目盛を半分(ASA100のフィルムならASA50)にセットして撮影します。

被写体だけが明るく周囲が暗い場合

人物だけが明るく周囲が非常に暗い場合など、周囲の影響を受けて実際に写したい主要被写体が露出オーバーになることがあります。このようなときは手のひらをカメラから30cmぐらい離しておき、シャッターボタンを軽く一段押して手のひらの露出を測り、メーター指針を止めたまま前の手をは

ずしてシャッターをきります。もし測光のとき被写体に近づくことができれば、その方がよい結果が得られます。フィルム感度目盛による補正は、目盛を２倍(ASA100 のフィルムなら ASA200)にセットして撮影します。

(ご注意) フィルム感度目盛の補正による撮影が終ったら、必ずもとの目盛にもどしておくことを忘れないでください。

カメラの構え方

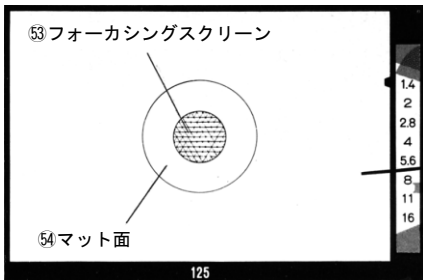
カメラはしっかり構えて

よいピントの写真を写すには、シャッターボタンを押す際カメラぶれを起さないように、確実に構えることがたいせつです。カメラは両手でしっかり持って、軽く顔に押しつけ、ささえる方のひじを体にあてて安定した姿勢で静かにシャッターをきります。

とくに縦位置の構え方は、横位置にくらべてうつしにくいようですが、練習してよく慣れてください。

・低速シャッターを用いるときや、望遠撮影のときは、手持ちではカメラぶれを起しやすいので、三脚とケーブルレリーズを使う方が確実です。三脚はカメラ底部の三脚取付けねじ㊷に、ケーブルレリーズはシャッターボタンの穴にそれぞれねじ込んで取付けます。

ピントの合わせ方

フォーカシングスクリーン(ピント板)㊺は、マイクロダイヤプリズム式か、あるいはスプリットイメージ式の距離計が内蔵されています。どちらも全く同じようにピント合わせができます。

マイクロダイヤプリズム式の場合
ファインダーをのぞきながら、フォーカスリング⑪を回し、中央のマイクロダイヤプリズム部の像がはっきり見えるように合わせます。ピントが合っていないと、像がギザギザしたように見えます。

スプリットイメージ式の場合
ファインダーをのぞきながら、フォーカスリング⑪を回し、中央のスプリットイメージ部の上下に分割された像が一つに見えるように合わせます。ピントが合っていないと、上下の像が左右にずれて見えます。

マイクロダイヤプリズム式

ピントが合ってないとき　　ピントが合ったとき

スプリットイメージ式

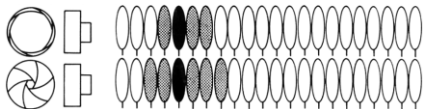
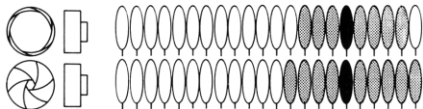
・F4.5より暗いレンズを使うとき、あるいは接写のときなどは、中央のマイクロダイヤ、またはスプリットイメージ部でのピント合わせがむずかしくなりますので、周囲のマット面㊹でピントを合わせてください。

・スプリットイメージ式の場合、平行線の被写体のときは、カメラを縦位置に構えてピントを合わせます。

・ファインダーは一眼レフ実像式ですから、ファィンダーで見られる像が実際に写る範囲になります。

・撮影距離を実測するときは、フィルム位置を示した距離基準マーク(⊖)㉑から被写体までの距離を測り、これでフォーカスリングの距離目盛⑧を決めます。

被写界深度

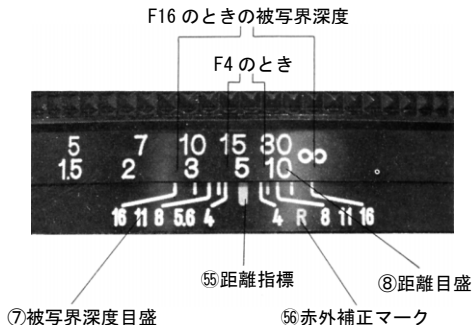
近距離にピントを合わせた場合

遠距離にピントを合わせた場合

被写体にピントを合わせたとき、その被写体の前後にも十分鮮鋭に写る範囲があります。これを被写界深度といって、次のような性質をもっています。

a. 絞りの数値が大きいほど深くなります。

b. 遠距離にピントを合わせたときほど深くなります。

c. ピントを合わせた被写体の前方より後方が深くなります。

d. レンズの焦点距離が短いほど深くなります。

この被写界深度は、被写界深度目盛とマニュアル絞りの２つの方法によって知ることができます。詳しくは被写界深度表をご覧ください。

被写界深度目盛による場合

各レンズの被写界深度目盛⑦には、距離指標㊿の両側に絞りと同じ目盛があり、この絞り値に対応する範囲が被写界深度になります。

たとえば50㎜ F1.4のレンズでピントを合わせた被写体までの距離が５ｍのとき、絞り値がF4では４ｍ～６ｍまで、F16になると３ｍから∞(無限遠)にある被写体はすべて鮮鋭に写ることがわかります。

赤外補正マーク：赤外線写真撮影の場合は、ピント位置が一般撮影よりも多少ずれるので、普通にピントを合わせた後、距離指標㊿と合った距離目盛⑧上の位置を赤外補正マーク56のＲ(赤線)までずらして撮影します。

絞り込みレバーによる場合

EEマークのついたARレンズは自動絞りですからファインダーは常に絞り開放の明るい状態になっています。絞り込みレバー⑤をレンズ側に押し倒すと、AEのときはメーター指針が示す絞り値まで、マニュアルのときはセットした絞り値まで絞られ、ファインダーをのぞくと、そのときの被写界深度の状態が見られます。

・絞り込みレバーを押したまま、シャッターをきらないでください。

被写界深度表(50mm F1.7・50mm F1.4)

許容錯乱円直径 3/100mm (単位m)

絞り＼距離	0.45	0.5	0.6	0.7	0.8	1.0	1.2	1.5	2.0	3.0	5.0	10.0	∞
F 1.4	0.44~0.45	0.49~0.50	0.59~0.61	0.69~0.71	0.79~0.81	0.98~1.02	1.17~1.22	1.46~1.54	1.93~2.07	2.85~3.16	4.60~5.46	8.46~12.01	56.42~∞
F 1.7	0.44~0.45	0.49~0.50	0.59~0.61	0.69~0.71	0.79~0.81	0.98~1.01	1.17~1.23	1.45~1.54	1.92~2.08	2.82~3.19	4.51~5.56	8.16~12.47	46.41~∞
F 2	0.44~0.45	0.49~0.50	0.59~0.61	0.69~0.70	0.78~0.81	0.98~1.02	1.17~1.23	1.45~1.55	1.91~2.09	2.80~3.22	4.45~5.65	7.96~12.96	40.62~∞
F 2.8	0.44~0.45	0.49~0.51	0.59~0.61	0.68~0.71	0.78~0.82	0.97~1.03	1.15~1.24	1.43~1.57	1.88~2.13	2.73~3.32	4.27~5.97	7.39~14.83	29.04~∞
F 4	0.44~0.46	0.49~0.51	0.58~0.61	0.68~0.72	0.77~0.83	0.96~1.04	1.14~1.26	1.40~1.60	1.83~2.20	2.63~3.48	4.03~6.54	6.68~18.94	20.35~∞
F 5.6	0.44~0.46	0.48~0.51	0.58~0.62	0.67~0.73	0.76~0.84	0.94~1.06	1.12~1.29	1.37~1.65	1.77~2.29	2.51~3.73	3.74~7.47	5.92~30.11	14.56~∞
F 8	0.43~0.46	0.48~0.52	0.57~0.63	0.66~0.74	0.75~0.85	0.92~1.09	1.09~1.34	1.32~1.73	1.69~2.44	2.35~4.16	3.39~9.54	5.06~270.12	10.22~∞
F 11	0.43~0.47	0.47~0.52	0.56~0.64	0.65~0.75	0.73~0.87	0.90~1.13	1.05~1.39	1.27~1.83	1.60~2.66	2.17~4.89	3.03~14.61	4.29~∞	7.46~∞
F 16	0.42~0.48	0.47~0.53	0.55~0.66	0.63~0.78	0.71~0.91	0.86~1.20	1.00~1.51	1.19~2.04	1.48~3.15	1.94~6.90	2.58~138.38	3.43~∞	5.16~∞

被写界深度表(57mm F1.2)

許容錯乱円直径 3/100mm (単位m)

絞り＼距離	0.45	0.5	0.6	0.7	0.8	1.0	1.2	1.5	2.0	3.0	5.0	10.0	∞
F 1.2	0.44~0.45	0.49~0.50	0.59~0.60	0.69~0.70	0.79~0.81	0.99~1.01	1.18~1.21	1.47~1.52	1.95~2.04	2.90~3.10	4.73~5.29	8.89~11.15	86.01~∞
F 1.4	0.44~0.45	0.49~0.50	0.59~0.60	0.69~0.71	0.79~0.81	0.98~1.01	1.18~1.22	1.47~1.53	1.95~2.05	2.88~3.12	4.69~5.34	8.74~11.39	73.74~∞
F 2	0.44~0.45	0.49~0.50	0.59~0.61	0.69~0.71	0.79~0.81	0.98~1.02	1.17~1.22	1.46~1.54	1.93~2.07	2.84~3.17	4.57~5.51	8.33~12.19	51.64~∞
F 2.8	0.44~0.45	0.49~0.50	0.59~0.61	0.69~0.71	0.78~0.81	0.97~1.02	1.16~1.23	1.44~1.56	1.90~2.10	2.78~3.25	4.42~5.75	7.83~13.44	36.92~∞
F 4	0.44~0.46	0.49~0.51	0.59~0.61	0.68~0.71	0.78~0.82	0.97~1.03	1.15~1.25	1.42~1.58	1.87~2.15	2.70~3.37	4.21~6.14	7.19~15.89	25.87~∞
F 5.6	0.44~0.46	0.49~0.51	0.58~0.61	0.68~0.72	0.77~0.83	0.95~1.05	1.13~1.27	1.40~1.61	1.82~2.22	2.60~3.54	3.96~6.77	6.49~21.02	18.51~∞
F 8	0.44~0.46	0.48~0.51	0.58~0.62	0.67~0.73	0.76~0.84	0.94~1.07	1.11~1.30	1.36~1.67	1.75~2.33	2.46~3.84	3.64~7.99	5.66~40.86	12.98~∞
F 11	0.43~0.46	0.48~0.52	0.57~0.63	0.66~0.74	0.75~0.86	0.92~1.10	1.08~1.35	1.31~1.74	1.68~2.48	2.31~4.29	3.31~10.35	4.89~∞	9.47~∞
F 16	0.43~0.47	0.47~0.53	0.56~0.64	0.65~0.76	0.73~0.88	0.89~1.14	1.04~1.43	1.25~1.89	1.56~2.79	2.10~5.36	2.88~20.46	3.98~∞	6.54~∞

セルフタイマー

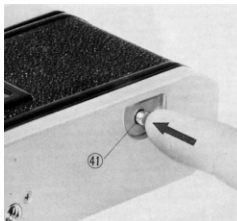
コニカT3のセルフタイマーはAE撮影、マニュアル撮影、フラッシュ撮影のいずれの場合でも使えます。ご自分もいっしょに記念撮影するとき、あるいはカメラぶれを防止するためケーブルレリーズの代りとしてお使いください。

セルフタイマーの使い方

セルフセットボタン⑥を押しながら、セルフタイマーレバー⑤を左(反時計方向)にいっぱいに回し、シャッターボタンを押すと約10秒後にシャッターがきれます。セルフタイマーのセットは、巻上げの前でも後でもかまいません。

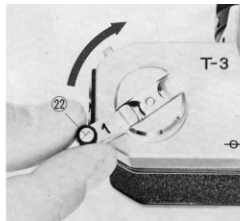
・ レバーのセット角を少なくしてシャッターがきれるまでの時間を短くすることもできます。

(ご注意) セルフタイマーによるAE撮影では、シャッターボタンを押すとき、アイピースから強い逆流光が入ると露出の精度に影響を及ぼします。ファインダーをのぞいたまま押すか、アイピースを手でおおいながら押すようにしてください。なお、ファインダーから目をはなし、カメラの前に立ってシャッターボタンを押すと、ご自分の衣服の明るさに対する露出になってしまいますから注意してください。

フィルムの巻もどし方

カメラに入れたフィルムを全部写し終ったら、次の順序でフィルムをパトローネに巻もどします。巻もどさずに裏ぶたを開くと、フィルムは全部だめになってしまいます。ご注意ください。

・ フィルムの終りで、巻上げレバーが途中で動かなくなったときは、無理に巻上げないで、レバーを逆に押しもどしてください。

1 巻もどしボタンを押し込む

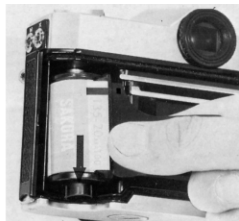
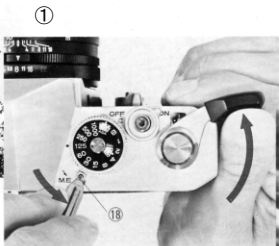
カメラ底部の巻もどしボタン㊶を押し込みます。一度ボタンを押せば、ひっこんだままになります。

2 クランクで巻もどす

巻もどしクランク㉒を起し、クランクの矢印の方向に回します。これでフィルムがパトローネに巻もどされて行きます。

3 パトローネを取出す

クランクの手ごたえが急に軽くなったら巻もどし完了です。直射日光のあたらないところで裏ぶたを開き、パトローネを取出してください。

・ フィルムカウンターは裏ぶたを開くと、自動的にスタートマーク（S）にもどります。

・ 巻もどしボタンは巻上げレバーを動かすと自動的にもどります。

多重露出

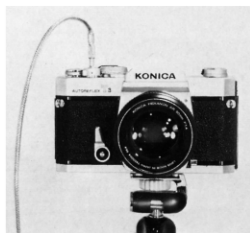
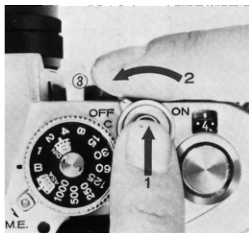
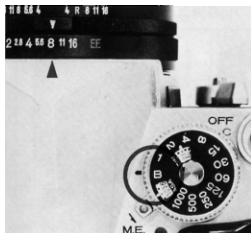
多重露出(Multi-Exposure)
シャッター速度ダイヤルの下にある多重露出レバー⑱を矢印の方向に押したまま、巻上げるとフィルムは巻上げられずに(フィルムカウンターも進みません)シャッターだけがチャージされるので、同一コマに何回でも露出することができます。

① はじめの露出を与えます。

② 多重露出レバーを矢印の方向に押したままで、巻上げを行ないます。

③ 次の露出を与えます。
この操作を希望の回数繰返します。

・ 多重露出レバー中央の穴に、ボールペンの先を差し込んで使うと楽に操作ができます。

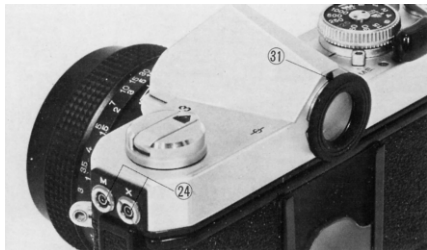
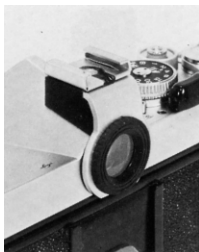
T露出

T(タイム)露出

シャッター速度ダイヤルをBにセットし、シャッターをきるとシャッターボタンを押している間はシャッターが開いていますから、1秒以上の長時間露出もできます。特に長時間のT露出が必要な場合は、Bにセットしてシャッターボタンを押したままレリーズロックレバー③を回し、OFFに合わせてください、これでボタンから指を離しても露出が続けられ、レバーを指で確実にONの位置までもどすとシャッターが閉じて露出が終ります。

・T露出でAEは使えませんから、マニュアル絞りに切り替えて絞りを決めてください。

・カメラぶれ防止のため三脚とケーブルレリーズが必要です。ロック付のコニカケーブルレリーズ3はTストッパーがあるので、レリーズロックレバーを使わなくてもT露出に利用することができます。

(ご注意) T露出中はシャッター速度ダイヤルを回さないでください。セルフタイマー作動中も同様です。

フラッシュ撮影

AE撮影ができない暗い室内や夜間はもちろんのこと、昼間でも補助光として日中シンクロを、フラッシュバルブやストロボ装置を使ってフラッシュ撮影をしますと美しい写真ができます。
カメラ側面にはMとX接点のシンクロソケット㉔があります。コード式のフラッシュ装置を使うときはプラグをM接点に接続し、ストロボを使うときはX接点に接続してください。
アイピース部㉜のシンクロ接点㉛は、専用ホットシュークリップ用で、ホットシュー(コードレス)の小型ストロボ装置、コニカX-20やX-14を装着するだけで、電気的に接続できます。

1 ホットシュークリップを取付ける

アイピース部のわくを左(反時計方向)に回し、はずしてからホットシュークリップを取付け、わくを右に回して確実にねじ込みます。従来のアクセサリークリップ３も同じように取付けて使用できます。

2 ストロボを装着する

ホットシュークリップにストロボの取付け足をしっかり差し込みます。コニカX-20やX-14のようなホットシュー(コードレス)のストロボ装置は、直接差し込むだけで電気的接続は完了し、接点は装置を取付けたときだけ導通しますから、直接指を触れても安全です。

コニカ T3 のフラッシュ同調表

接点	シャッター速度 ＼ バルブ	B	1	2	4	8	15	30	60	125	250	500	1000
M	M 級	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	FP級	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	MF級（フラッシュキューブ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
X	MF級（フラッシュキューブ）	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×
	ストロボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×

○……同調　×……同調せず

3 露出を決める

シャッター速度はフラッシュバルブで全速度同調し、ストロボの場合は1/125秒まで同調します。フラッシュを主光源とするフラッシュ撮影でAEは使えませんから、マニュアル絞りに切り替えます。一般に絞り値はお使いになるフラッシュバルブやストロボのガイドナンバーを撮影距離で割って求めます。

たとえばストロボのガイドナンバーがASA100で20、撮影距離5mのときは、20÷５＝４となります。これでマニュアル絞り目盛をF4に合わせれば、適正露出が得られます。

コニカキューブフラッシュを使う場合

コニカキューブフラッシュをホットシュークリップに取付けて、コードレスで使う場合、シンクロ接点はＸ接点ですから、シャッター速度は1/30秒以下でしか同調しません。1/60秒以上の高速シャッターを使うときは、付属のシンクロコードをシンクロソケットのＭ接点に接続してください。

多灯ストロボ撮影の場合

ホットシュークリップとカメラ側面のシンクロソケットを使用し、写真のような２灯ストロボ撮影ができます。この場合の露出は、使用するストロボのガイドナンバーが同じなら、１灯より算出した絞り値より１絞りだけ絞り込み、写真の場合はガイドナンバーが14と20ですから半絞り絞り込みます。実際にはその場所の条件により大きく変わるので、テスト撮影することをおすすめします。

レンズの交換

レンズを取りはずすには

レンズ交換ボタン㉗を押しながら、レンズを持って左(反時計方向)に回し、レンズの赤点とボディのレンズ着脱指標㉖(赤点)が合った位置で引き出します。

レンズを取付るには

レンズの赤点とボディのレンズ着脱指標(赤点)を合わせて静かにはめ込み、レンズを持って右(時計方向)に、カチッと音がして止まるまで回してください。

(ご注意)

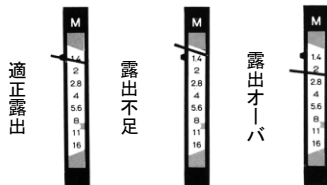
- レンズをはずしたときは、ボディ内部やレンズ鏡胴にゴミが入らないようにし、レンズ面にはキズや指紋をつけないようにしてください。特にボディ内部は絶対にさわらないようにしてください。
- 長時間レンズをはずしておくときは、ボディキャップやレンズの後につけるマウントキャップが用意されていますからご使用ください。
- レンズを取付けるときは、必ずレンズ側とボディ側の赤点が合う位置ではめ込むようにしてください。

絞り込み測光撮影

EEマークのついたARレンズは、AE撮影でもマニュアル撮影でも、自動絞りのままで開放測光ができますが、次のような場合は絞り込み測光で露出を決めます。

1. 手動プリセット絞りのARPレンズや手動クリック絞りのARMレンズを使うとき。
2. エクステンションリングやベローズなどの使用で自動絞りが使えないとき。
3. レンズマウントアダプターで、コニカFS、FP、FMや他社のレンズをT3に使うとき。

露出の決め方

絞り込み測光のときは、ファインダー視野内の絞り目盛は利用できません。絞りリングまたはシャッター速度ダイヤルを回し、F1.4のところにある絞り込み測光用定点㊺にメーター指針㊾を合わせると適正露出にセットされます。
絞りとシャッター速度の組合せが適当でないと、指針は定点に合いません。指針が定点より上にあれば露出不足、下にあれば露出オーバーですから、絞りまたはシャッター速度で調節してください。

・絞り込み測光は開放測光にくらべて、アイピースからの逆流光の影響を受けやすくなります。眼をアイピースに押しつけるようにして露出を決めてください。また、指針の振れが非常にゆっくりしています。完全に指針が定点に合ったことを確認してから撮影してください。
・手動プリセット絞りのレンズを使用する場合は、あらかじめプリセット絞りリングを最小絞りにセットしておき、絞りリングだけを回せば、操作がやりやすくなります。
・顕微鏡撮影のときも絞り込み測光ですが、絞りがありませんから、シャッター速度か光源の明るさで調節してください